



## リチウムイオン電池の取り扱いと、電池ごみ分別方法

リチウム電池を使用した草刈り機やチェーンソー、リチウムイオンバッテリーが搭載されたファン式空調服やモバイルバッテリーなどが普及してきました。リチウムイオン電池は高容量、高出力、小型という特徴がありますが、発火事故が多数起きています。熱や衝撃・水に弱い性質があるため、高温になる場所に放置すると電池内部の温度が上昇し発火することがあります。落下させたり、水、海水、ジュースなどの液体で濡れるなど、取り扱い方法を誤ると極板の破損や、電解液が変質・噴出し急激な発火が起きますのでご注意ください。

奥出雲町では、年に3～4回不燃ごみ収集袋（赤色）による乾電池類のごみ収集があり、乾電池・ボタン電池・コイン型リチウム電池・充電式電池（リチウムイオン・ニッケルカドニウム・ニッケル水素）を回収しています。公民館と役場庁舎には、乾電池とボタン電池・コイン型リチウム電池の回収ボックスがありますのでご利用ください。

膨張したリチウムイオン電池は、電極を絶縁処理して（セロテープやビニールテープを貼って）出してください。小型家電はできるだけ電池を外して本体は不燃ごみ収集袋（赤色）で「金属・陶器・ガラス・小型家電」収集日に出すようご協力をお願いします。

【お問い合わせ】環境政策課 電話：54-2513



### 骨髄移植ドナー支援事業

骨髄・末梢血幹細胞提供者（ドナー）となられた方へ通院費等を助成します

公益財団法人日本骨髄バンクが実施する骨髄バンク事業において、骨髄・末梢血幹細胞提供者となられた町民を対象に、骨髄等の提供に係る通院又は入院の日数に2万円を乗じた額を助成します。（1回の骨髄等の提供につき14万円を限度）申請方法は、町が定める申請書兼請求書に、必要書類を添えて骨髄等の提供が完了した日から60日以内に健康福祉課まで申請してください。

対象・申請方法等の詳細については、町のホームページ又は健康福祉課へご確認ください。

【お問い合わせ】健康福祉課  
電話:54-2781 有線:31-5000（内線5142）

### 10月は臓器移植普及推進月間 骨髄バンク推進月間 10月10日は目の愛護デー



移植医療は、医療従事者と患者さんだけではなく、第三者の方からの善意によるご提供、そして社会の理解と支援により成り立っています。

～意思表示があたりまえになる社会に～

『提供したい』『提供したくない』どちらも一人ひとりの平等で大切な意思です。ご自身の大切な意思が生かされるように意思表示しましょう。臓器提供の意思表示は、マイナンバーカード・運転免許証・インターネットによる意思登録・臓器提供意思表示カードで意思表示をすることができます。

～もしもの時、決めるのはご家族～

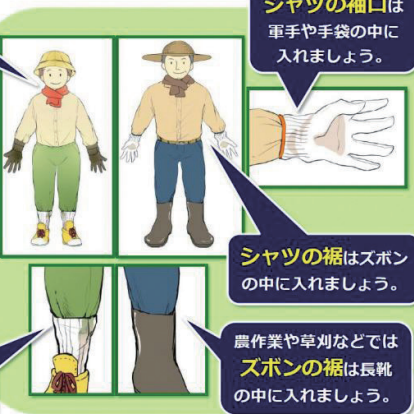
もしもの時、自分はどうしたいのか、どうしてほしいのか…。ご自身の意思をもとにご家族が納得のいく結論が出せるように、折りにふれて家族で意思（想いや願い）について話し合う機会をもちましょう。



【お問い合わせ】出雲市場治町223-7 ヘルスサイエンスセンター島根  
しまねまごころバンク  
電話：(0853)22-2556

野外では、腕足・首など、肌の露出を少なくしましょう！

農業委員会から  
農作業中は「マダニ」に注意を！  
春から秋にかけては、マダニの活動が活発化します。マダニに咬まれるといういろいろな感染症を引き起こす可能性があります。マダニは草むらや山だけでなく、畑やあぜ道にも生息していますので、農作業の際は次のことに気を付けましょう。  
・長袖・長ズボン、長靴、手袋などを着用し、肌の露出を少なくしましょう。  
・作業後、上着や作業着は家の中に持ち込まないようにしましょう。  
・作業後はシャワーや入浴でマダニが付着していないか確認しましょう。



首にはタオルを巻くか、ハイネックのシャツを着用しましょう。

シャツの袖口は軍手や手袋の中に入れてください。

シャツの裾はズボンの中に入れてください。

農作業や草刈などではズボンの裾は長靴の中に入れてください。

ハイキングなどで山林に入る場合は、ズボンの裾に靴下を被せましょう。

（出展：国立健康危機管理研究機構「マダニ対策、今できること」）

日刀保たたら  
堀尾村下  
初作玉鋼 一級贈呈

7月28日仁多庁舎にて、公益財団法人日本美術刀剣保存協会（日刀保）村下堀尾薫様より「令和六年度第一代日刀保たたら玉鋼（二級）」が贈呈されました。この玉鋼は、堀尾村下が村下に就任して初めてのもので、伝統を受け継ぎつつ新たな一歩となる大変貴重なものです。

贈呈式では、堀尾村下より「これからは全責任を背負い、歴代村下より継承してまいりました技能・技術・精神の教訓を忠実に守り、令和の玉鋼を生み出してまいります」と力強く挨拶されました。奥出雲町で受け継がれるたたら炎と匠の心技が、今後も日本刀文化の発展に大きく寄与されます。

▲日刀保たたら 堀尾薫村下(右)

### 奥出雲町地域医療確保推進協議会 研修会開催



令和7年7月24日、奥出雲町地域医療確保推進協議会の総会ならびに研修会を開催しました。研修会では、町立奥出雲病院 鈴木賢二院長と、同総合診療科部長兼在宅診療センター長 遠藤健史医師からご講演いただきました。

鈴木院長からは、「奥出雲の医療・介護の将来」と題し、奥出雲町のこれからの医療と介護はどうあるべきか、お話しいただきました。総人口の減少と高齢化率の上昇に歯止めがかからない現状から、本町では、今後ますます医療と介護の一体化を図り、効率的に運営していくことが必要となっていくとの見通しを示されました。そこで奥出雲病院としては、他の専門施設や専門医との連携を一層強めながら、質の高い医療と介護を提供できるよう努力を続け、町民みんなが安心して暮らせるまちづくりに貢献していくと力強く述べられました。

遠藤医師からは、「寄り添いの医療」と題して、誰もがいつかは迎える「最期」にどう備えておくべきか、という重いテーマを投げかけられました。遠藤医師は、数々の現場での辛いご経験や、ご家族を看取られたご経験から、元気なうちに自分がどのように最期のときを迎えたいのか、身近な人と話し合っておくことが必要だと痛感されたとのこと。本人にとってはもちろんのこと、家族にとっても心穏やかな看取りとなるために、4年前に導入した「これからノート」を活用するなど、そのときに備えておいてほしいとのことでした。



横田  
高校

横田高校の活動をお知らせする「よここうコーナー」

### よここうオープンハイスクール開催



このオープンスクールを通して、横田高校でしか過すことのできない高校生活や地域とのつながりを一緒に味わいたいと思っていただけたのであれば幸いです。奥出雲の地で高校生活を存分に謳歌しましょう。今回参加された中学生の皆さん、本当にありがとうございました。

第二回は10月に実施を予定しています。様々な活動を通して横田高校の魅力を発信し、奥出雲町を盛り上げていきたいと思っています。皆さんを横田高校でお待ちしています。

8月7日に第一回横田高校オープンハイスクールを実施しました。今年度は、県内外から69名の中学生の参加がありました。学校紹介や体験授業を通して、横田高校の魅力や中学校との違いを実感してもらいました。異なる中学校の生徒さん同士で積極的にコミュニケーションをとっている姿が印象的でした。また、部活動の体験・見学もしてもらいました。部活動も盛んな横田高校で、先輩方と汗を流し、会話を弾ませ、音を奏でるなど有意義な時間となったのではないのでしょうか。勉強はもちろんですが、部活動を通して学べるべきことはきっとあるはずです。

